

心のはじめて

平成31年2月
立川女子高等学校
カウンセラーだより裏面

人類の誕生は今から700万年前だそうです。それまでは、私たちの祖先は、猿の仲間でした。この頃までは、私たちの祖先は、4本足で歩いていましたが、およそ700万年前に、2本の足だけで歩く猿が登場したそうです。この二足歩行の猿の登場が、人類の誕生です。



2本足で歩くということは、手が自由に使えるということです。それまで果物などの食べ物を運ぶのには、口でくわえるという方法しかなかったのに、手が使えることによって、一度により多くの食べ物を運ぶことが出来るようになりました。ですが、この頃の人間の祖先の脳は、今のチンパンジーやゴリラと同じ大きさしかありませんでした。ですから、この頃の祖先には、まだ心が育っていませんでした。

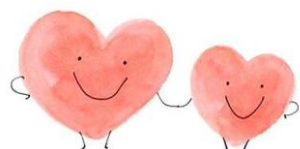
やがて、人間の祖先は、自由に使える手を使って、色々な道具を作って使うようになりました。最初に作られた道具は、石器でした。石を砕いたり磨いたりして石器を作り、それを使うようになりました。人間は、ライオンやサイなどの力の強い動物に比べると、力が弱かったので、多くの人たちが動物に襲われて命を落としていたようです。動物の襲撃によって、絶滅の危機を迎えた時期もあったようですが、道具を使うことで、力の強い動物にも負けない力を得ることが出来たそうです。

でも、中には力が弱い人たちがいました。例えば、女性、お年寄り、子どもなど、力が弱い人たちは、自分の命を守るのが大変だったようです。それまで数人の家族だけで暮らしていた人間たちは、やがて血がつながった人たちが大勢集まって、大家族で住むようになりました。家族の中では役割分担が進んでいきました。力が強い若い男性が狩りをして獲物を捕り、それを狩りが出来ない弱い人たちに分け与える一方で、狩りが出来ない人たちも、自分たちの仕事をしていたと思われれます。

道具を作り、集団で住むようになって、人間の脳はどんどん大きくなっていきました。今から200万年前、それまでは血のつながりがある人だけで住んでいた人間は、やがてそれ以外の人たちとも近くに住むようになりました。大きい集団は、数百人にもなったそうです。これが「村」の始まりです。そして、その集団の中で、人間たちは、情報を共有したり、お互いに助け合ったりするようになりました。そして、お互いを思いやることが出来るようになってきました。

この「思いやり」が、私たち人間の「心」のはじまりです。人間がはじめて獲得した「心」は、憎しみでも悲しみでもなく「思いやり」だったのです。

思いやりの心は人から人へとどんどん広がり、人々は助け合って暮らすようになりました。この頃の人間たちにも、実は怒りや恐怖といった感情があったのかもしれませんが、そうしたマイナスの感情は「敵」である力の強い動物に向けられていたと考えられているそうです。人類は、憎しみ合うこともなく、お互いを思いやったり、助け合ったりすることで、絶滅せずに生き延びてきたのです。



人間が最初に獲得した感情である「思いやり」の心を、私たちは先祖代々受け継いできました。そして今、私たちは、色々な人々と助け合って生きています。人類が最初に獲得した「思いやり」の心を大切に育むこと、そして、今後はそれを未来の子孫たちに伝えていくことが、私たち人間に与えられた使命なのかもしれません。